

生活道路のゾーン対策 『出前講座』開催について

一般社団法人 交通工学研究会
生活道路に関する検討小委員会

生活道路や通学路での痛ましい事故のニュースが後を絶ちません。一方、国では、ゾーン 30 の推進や凸部等設置に関する技術基準などにより、さらに実効性の高い対策を進めようとしています。こうした動きを踏まえ、生活道路のゾーン対策をさらに前進させることを目的として、平成 29 年 6 月「改訂生活道路のゾーン対策マニュアル」を発行しました。(ISBN978-4-905990-86-4)

生活道路の安全対策のさらなる普及を目指して、以下のような活動を行っておりますので奮ってご応募いただければ幸いです。



【出前講座の開催】

前回のマニュアル出版時にも開講しました出前講座を、「改訂 生活道路のゾーン対策マニュアル」に準拠したバージョンアップした内容で行います。ゾーン 30 導入に係る協議会等での利用のほか、自治体・警察の新任研修や、町内会・自治会での交通安全対策を考える集まりなど、様々な機会にご活用ください。受講者が数人であってもかまいません。生活道路対策の実務に長けた技術者や、各地で実践的研究をすすめる学識経験者が、全国どこにでも駆けつけて、生活道路のゾーン対策の考え方の解説、マニュアルの説明、質疑応答をさせていただきます。

なお、時期、方法、講師、費用などについては、申し込みいただいてから個別にご相談させていただきます。

● お申込・お問い合わせ

交通工学研究会 生活道路に関する検討小委員会 担当係

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-23 Tel 03-6410-8717 050-5507-7153

● 出版物『生活道路のゾーン対策マニュアル』のお申込み・販売について

発売：丸善出版 株式会社 <http://pub.maruzen.co.jp/> Tel03-3512-3256

会員の方は、交通工学研究会へご注文願います。





改訂 生活道路の ゾーン対策マニュアル

交通工学研究会 発行 丸善出版 発売 ISBN978-4-905990-86-4
平成 29 年 6 月発行 A4 版 223 頁 本体価格 3,500 円+税 会員価格 3,150 円+税

交通工学研究会では、1996 年発行の「コミュニティ・ゾーン形成マニュアル」にはじまり 2011 年発行の「生活道路のゾーン対策マニュアル」まで、4 冊のマニュアルを出版してきました。この 2011 年の出版後も、より効果的で実効性のある対策の導入を目指して生活道路対策は進展していることから、この 6 年間の最新の制度・取り組み・知見を広く普及することを目的として、改訂マニュアルを出版することとなりました。

改訂のポイントは、2011 年から推進されている「ゾーン 30」、そして 2016 年に制定された「凸部、狭窄部及び屈曲部の設置に関する技術基準（以下、技術基準とします）」への適合です。「ライジングボラード」も新たに項を設けて解説します。その他にも、本書は前マニュアルの構成を踏襲しつつ、全編にわたり内容を精査し大幅に追記や変更を加えました。ステップにそって対策のプロセスを解説する第 I 部では、ゾーン 30 や技術基準の解説や、新たな調査手法であるビッグデータ活用などを追記し、最新の施策に適合した内容となりました。交通規制や物理的デバイスなどの具体の対策手法の適用や留意点を解説する第 II 部は、ハンプ、狭さく、シケインについて技術基準に適合した内容とし、あわせて豊富な参考事例やコラムを掲載しました。豊富な事例から対策の実際を紹介する第 III 部では、追加対策の事例や通学路の取り組みを追加しました。まさに最新の生活道路対策を「基礎から実践まで」を網羅した一冊となりました。

技術者・実務者の方はもちろん、生活道路や通学路を守る市民の方まで、幅広く読んでいただけるよう構成を工夫しております。安心して安全な生活道路の実現にむけ、本書が全国各地で活用されることを期待しています。

生活道路に関する検討小委員会 委員長 久保田 尚

-目次-

はじめに

第 I 部 ゾーン対策の進め方

- 1.1 ゾーン対策をはじめめる 【ステップ 0】
- 1.2 地区の課題を知る 【ステップ 1】
- 1.3 対策を考える 【ステップ 2】
- 1.4 対策を実施する 【ステップ 3】
- 1.5 課題の解決を確認する 【ステップ 4】

第 II 部 対策手法と留意点

- 2.1 手法の種類と適用の考え方
- 2.2 主な手法の特徴と適用上の留意点
- 2.3 交通規制と物理的デバイスの主な組み合わせ事例
- 2.4 その他の留意点

第 III 部 生活道路対策の事例

- 3.1 生活道路のゾーン対策の取り組み事例
- 3.2 各種取り組みと生活道路対策

参考資料

索引

・改訂版のポイント・

はじめに…

- ・これから始めようという方、実務者の方、さまざまなお悩みにあわせて、このマニュアルをナビします。

第 I 部では…

- ・対策推進のステップごとに、調査、計画策定、対策実施、評価に維持管理と詳細に解説します。
- ・ゾーン 30、凸部等技术基準、ビッグデータなど、新たな情報を掲載しました。

第 II 部では…

- ・必要な交通規制を主としたソフト的手法を網羅しています。

最高速度 30km/h の区域規制、大型車等通行止め、歩行者用道路、一方通行、駐車禁止と駐車可、路側帯の設置・拡幅、一時停止規制と路面表示

- ・物理的デバイスは、凸部等技术基準に完全対応し、ライジングボラードなどの最新情報も掲載しています。

ハンプ、狭さく、シケイン、遮断、ライジングボラード

- ・留意点として「自転車通行」について内容を全面見直し、新たに「物理的デバイスの看板・表示」「寒冷地、積雪地、積雪寒冷地における物理的デバイス設置時の留意点」を追加しました。

第 III 部では…

- ・掲載事例 3 地区を追加しました。
つくば市（要地区）、船橋市（坪井地区）、綾瀬市（寺尾釜田地区）
- ・テーマ別の取り組み事例も追加しました。
通学路、市民参加、ライジングボラードの活用

📖 書籍のご注文につきましては下記サイトをご利用ください
発行 交通工学研究会 <http://www.jste.or.jp/>
発売 丸善出版（株） <http://pub.maruzen.co.jp/>